

皆様こんにちは！メルマガ担当のトムです。

日本列島各地で猛暑や豪雨のニュースが報じられ、新型コロナ変異型感染拡大もあり、日本各地は緊張した状況となっています。当会は会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、「障壁は必ず乗り越えられる」ことを、パラスポーツを観て知って体験することで感じ、コロナ禍や異常気象や戦争が起きてしまっている今の世の中であっても如何に前向きに進んでいけるか、皆様とメール等でたくさん対話をさせていただきながら、パラスポーツを応援する活動やイベントの中に見出だして行けましたらと思っております。新型コロナ感染防止にも引き続き十分配慮しながら活動をして参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

さあ、パラ草の会メルマガ第22号の発刊です！！

~~~~~  
今回は、下記の内容で進めて参ります。

- ① 手話ダンス関係。パラ草手話部部員募集。
- ② 渋谷区イベント開催情報。
- ③ 心のバリアフリーコーナー（人間とはいったい何なのか？と題した勝手なつぶやき）

~~~~~  
**【手話部からのお知らせ】**

8/27(土) 18:30～(約15分間) 「みんなが主役！ガラコンサート」(手話部)に参加予定

場所：渋谷区文化総合センター大和田(4F さくらホール/渋谷区桜丘町23-21)

出演者は、主にバレエ関係の方が多く、プロの方の演技も見る事ができますようです！

通常は入場料500円(パンフレット代)ですが、18:50までの限定で、受付で「パラ草」とお伝えいただくと、そのままご入場頂けます。バレエに興味のある方はぜひ♪

詳細は、下記リンクよりご確認ください。

パラ草専用チラシ〔PDFファイル〕 → <https://parakusa.com/pdf/20220805gara.pdf>

**【渋谷区イベント開催情報】**

9/3(土) 10:30～ / 4(日) 10:00～ 渋谷区長杯 第5回車いすラグビー大会

※ライブ配信予定もあり。

場所：渋谷区スポーツセンター(渋谷区西原1-40-18)

2023年1月に開催予定の日本選手権大会の予選でもあるこの区長杯。

予想を超える衝突音と迫力をぜひ味わいに来てください♪

詳細はコチラ〔PDFファイル〕 → <https://parakusa.com/pdf/20220805rugby.pdf>

**【心のバリアフリーコーナー】**

「いったい人間とは何なのか」～歴史的背景からみた勝手なつぶやき～

「人間とはいったい何か？」などという問いは、一般的には生物学から定義的に答えを出せばいいように思われるが、この問いのヒントを得るためには人間の歴史をみる事が大変意味のあるものだと感じている。

人間の定義は「生物学的には哺乳類の霊長目ヒト科に属する動物の総称。学名ホモ・サピエンスをさす。他の動物と異なり、直立歩行ができ、手を巧みに使って道具をつくる。脳は著しく発達し、特有の文化をもつ。」(精選版 日本国語大辞典)である。また、哲学的な見解としてデカルトは、「理性なり分別なりは、私たちが人間にし、動物から区別するただひとつのものである。」(デカルト著作集)と言っている。つまり、人間とは理性を持つ文化的な動物だということだ。

しかし、文化的で理性を持っているはずの人間は、現代においても戦争を起こしている。過去の歴史の中には様々な戦争や戦乱があった。

「世界全戦争史」という書籍の中で著者は「人類の歴史は戦争の歴史である。実際、有史以来の世界史年表を眺めると、地球上で戦争が行なわれていなかった時間は、累算でもわずか6年ぐらいしかない。」と言っている。確かにそれは事実だとは思いますが、はたして「人類の歴史は、戦争の歴史だ」と言い切っているのだろうか。そもそもなぜ戦争が起こったかを追求する必要がある、そこに「人間とは」の答えのヒントもある。いつの時代の人間にも、生活をより良くするために領土や活動範囲を拓げていかねばならなかった事情があったと考えられる。それゆえ領土拡大をめぐる戦乱がいつの時代も頻繁に起きていた。より良い生活のため活動範囲を拓げるには、未開の山野を次々と切り開かねばならない。つまり人間の歴史は、山野などの未開の土地や山林に対しての自然破壊の歴史ではないだろうか。「自然破壊をやってきたのは人間なんだ。それも悪人がやったのではなく、善良な人が自分の子供を飢えさせず、また飢えた隣人を見殺しにしないためにやってきたことの結果なんです。」と語る、著名作家もいる。

「人間」とは、生きるためには自然破壊をしていかなければならない存在である。しかし、人間だけが生き残ることは、人間が減る道になる。これは世界最古の文献であるギルガメッシュ叙事詩に「私は人間の幸福のために、いかなるものを犠牲して構わないと思った。フンバの神と共に、無数の生き物の命を奪ってしまった。やがて森は無くなり、地上には人間と人間によって飼育された動植物だけしか残らなくなる。それは荒涼たる世界だ。人類の滅びに通じる道だ。」と書かれている。

人間が生きるための自然破壊はある程度はやむを得ないことだろう。人間以外の動植物や自然をいかに生かして地球環境を整えていくかが我々人間に課せられた命題であろう。

「人間とは」、「人間が生きていくため唯一無二の地球の自然環境を整え、未来につないでいく役割を持った生物体である」と結論づけられる。また、自然と人間との関係を考える時、人間と人間(人間同士)の関係も同時に考える必要がある。自然と人間が共生するためには、人間一人ひとりの個性を尊重した共生社会がベースにならなければならないからだ。

旧約聖書の創世記第6章から第9章には、欲やエゴイズムなどにまみれた人類が神の起こした天変地異により滅びゆく記述がある。有名なノアの方舟(はこぶね)の一節であるが、このような天変地異は、聖書に書かれた大昔の伝説の中の出来事ではなく、「人間と自然、人間と人間、の調和と循環を整えた共生という任務」を我々が果たせなかった時の未来の地球の姿とその警鐘のような気がしてならない。(トム)

~~~~~

※次回のメルマガは9月中旬に発刊を予定しております。

スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋、皆様とメルマガでまたお会いできますこと楽しみにしております。

